

少年キャディーの座談会

～思い出を語る～

ゴルフ場では、土曜・日曜ともなると、地元の子供たちが少年キャディーとして、小遣い稼ぎをしていました。

当時少年キャディーをしていた、安宅さん、土池さん、吉本さんの三人に思い出を語ってもらいました。

高価だった

ゴルフボール

安宅さん 当時ゴルフボールは高価だったので、ボールをなくさないよう、プレーヤーに「ボールの行方をよく見てほしい」と言われましたが、慣れないうちは、ボールを目で追うのが大変でした。

また、今と違って牧草地のように草が伸びていたので、ボール探しにも苦労しました。



▲土池さん

プレーヤーが打ったボールを探るのがキャディーの一番の仕事でしたね。

土池さん 昔は、今よりもゴルフが上手な人が少なかったので、ボールがあちこちに飛んで行きました。ボールを探している時にへびなんかもよく見かけましたよ。

思い出のチョコレート

安宅さん プレーヤーは、キャディーに対して優しい人が多かったのですが、中には何でもキャディーの責任にする人もいました。

プレーヤーにしかられた嫌な思い出があるので、自分が



▲クラブハウス内部の様子

大人になり、ゴルフをするようになってからは、キャディーに対して絶対怒ったりしないよう心掛けています。

吉本さん 当時北海道長官（現在の北海道知事）をしていた、戸塚九一郎氏のキャディーをした時、ゴルフボール型のチョコレートももらったことがあります。キャディーのためにわざわざ用意してくれたのでしょうか。今でも忘れられないうれしい思い出です。

キャディーの使いみち

吉本さん 私が子供のころの娯楽といえば映画でした。当



▲安宅さん



▲吉本さん

時は遊ぶ場所も少なかったので、キャディーフィーが入るとすぐに映画館に足を運びました。唯一の楽しみでしたね。

安宅さん 私はキャディーフィーが入ると、親に取り上げられていましたよ。

土池さん プロゴルファー、佐藤敏夫氏のゴルフクラブを壊してしまった思い出があります。キャディー仲間で、佐藤プロのゴルフクラブを勝手に持ち出して遊んでいたから、ヘッドを飛ばしてしまったのです。あの時は真つ青になりましたね。プロの商売道具を壊してしまったのですから。

結局、お金を出し合い、ゴルフクラブを弁償して許してもらいました。おかげで一カ月のキャディーフィーがパーになってしまいましたよ。

キャディーの

ゴルフ大会

吉本さん 年一回程度、キャディーのゴルフ大会が行われ、皆楽しみにしていました。日ごろは自分で木を削って作ったゴルフクラブを使っていたのですが、この時ばかりは本物のゴルフクラブを貸してもらい、腕を競い合いました。娯楽がない時代に本当に楽しい思いをさせてもらいましたね。

安宅さん なんかはかなりの腕前だったので、現在もシングルプレーヤーとして、大いにゴルフを楽しんでいますよ。



▲当時のゴルフ風景。少年キャディーの姿も見える